

平成 21 年度 第 1 回社会教育委員の会議 議事録

日 時 平成 21 年 7 月 14 日 (火) 午後 1 時 30 分 ~ 3 時 50 分
会 場 石狩市公民館第一研修室

出席委員 委 員 長 徳田昌生
副 委 員 長 相馬保
委 員 岩田博明、杉浦篤子、中川妙子、山根利子、
村中誠治、藤原市子、井畑定孝、若林厚一郎
事 務 局 生涯学習部 部長 三国義達
社会教育課 課長 清水雅季、主査 板谷英郁、主任 西山隆之
地域教育推進室 参事 東信也、主査 吉田雅人
社会教育主事 松永実

会議内容

1 委嘱状交付

2 樋口教育長あいさつ

6 月 1 日から教育長を務めております樋口です。先の 6 月議会で、私の教育行政に望む姿勢を述べさせていただきましたが、自治基本条例を基に「市民との協働によるまちづくり」という考え方を踏まえ、市民一人ひとりが協働して自主的に未来の石狩市を担っていただくための環境を作ることが、石狩における教育の責務であると考えています。そのためには、いつでもどこでも誰でも学べることが大切で、生涯学習そのものがまちづくりであると感じています。生涯学習の推進につきましては、4 月から市民との協働により「いしかり市民カレッジ」がスタートしましたが、社会教育事業の向かうべき姿の見本であると考えますし、社会教育課長にはこれに続くものを探していただきたいとお願いしています。一方、学ぶ場につきましては、いわゆる文化会館はありませんが、公民館、コミセン、研修センターなどといった施設が各地域にあります。今年度末に閉校する紅葉山小学校につきましては、特別支援学校のミニ教室とあわせて社会教育的な施設として使っていきたいと考えています。現在市教委では教育プランを作成中ですが、生涯学習をいかに進めていくかという基本的な考え方と併せ、中核的な施設をどこに設置してどう活用するのが課題になっています。紅葉山小学校がその機能を果たすのか、公民館がいいのか、他の施設との連携はどうかを事務局で検討しているところですので、様々なご意見をいただければと思います。社会教育事業につきましては、課題への対応を先読みしながら進めていきますが、それにより生涯学習そのものの形が変わっていきますので、今後とも皆様の貴重なご意見をいただきたく、お願い申し上げます。

3 徳田委員長あいさつ

社会教育とは何であるか、あるいは社会教育委員は何をなすべきかについては絶え

ず議論のあるところであり、様々な考え方があります。先週、第 29 回社会教育委員長等研修会があり、その中のグループ討議で、各市町村の実情をお聞きし、様々な活動が行われていることを知りました。社会教育とは一般的に学校教育以外のすべてを指すと言われており、幅が広く、その中で端的に取り上げられるのが生涯学習です。生涯学習もたいへん幅の広いものですが、その中の一つとして「いしかり市民カレッジ」の活動は、社会教育委員の会議の中から生まれたものであり、今後とも関与していくべきものと思っています。もう一つには、地域の住民が関与する教育があると思います。子どもを育てることについては、学校が重要な部分を担っていますが、学校だけ、あるいは家庭だけでは解決できないことが多くなっています。地域に住む人たちが一緒になって子どもを育てることを目指して、学校、家庭、地域を結びつけることが社会教育の役割だと思っています。そういう意味で、学校地域支援本部事業は、私たち社会教育委員が何らかの形で関与して積極的に役割を果たす必要があると考えています。三つ目に大切なのは家庭教育であると思います。これに関して石狩市では子育て支援ということで教育委員会から離れたところで取り組まれていますので、この会議で関与するのは難しい状況にありますが、本社会教育委員の中にはその分野から来ておられる方もいて、個々に力を発揮されています。この会議全体としてどう関われるかは今後の課題であると思います。したがって、当面は生涯学習と地域ぐるみで子どもを育成するという点が社会教育委員として推進すべき課題であると考えますので、委員の皆様のご協力並びに市教委のご支援をよろしくお願い申し上げます。

4 委員及び関係職員紹介

5 社会教育委員についての説明（松永社会教育主事より資料説明）

6 報告

（1）学校地域支援本部事業（吉田主査より資料説明）

【質疑応答】

村中委員：花川北中の花壇づくりには作業員として参加し、紅南小では看板づくりと光の子学級との交流を取材しましたので報告します。北中では、作業の様子を子どもたちが見て元気にあいさつしてくれたり、窓から「きれいになったなー」という声を聞けたりして、良さがあることを体験しました。紅南小では地域の人たちがボランティアで参加してくれていたのですが、自分たちで果物の差し入れを持ってきて和気あいあいと作業していて、とてもいい雰囲気でした。光の子学級との交流も音楽と踊りでたいへん盛り上がり、子どもたちがいきいきと交流していました。

徳田委員長：いい方向に進んでいるようですね。この会議全体でも何か取り組めることがあればそうしたいと思いますし、委員個人でもできることがあればお願いしたいと思います。今は花川北中校区が対象となっていますが、今後は市の全域で取り組めるような体制作りも検討していかなければならないと思います。

（2）いしかり市民カレッジについて（徳田委員長より資料説明）

今年の 4 月にいしかり市民カレッジが開校し、関係者、入学者など多くの参加のもと祝賀会を開催したことや、現況などが報告された。

【質疑応答】なし

(3) いしかり子ども総合支援会議委員の推薦について（板谷主査）

事務局と委員長とで相談し、石狩市スポーツ少年団副本部長でもある井畑委員を本人からの了解を得た上で推薦したことが報告された。

井畑委員：6 月 12 日に第 1 回の会議が開かれ、27 人の委員が集まり、平成 22 年から 26 年までの次世代育成支援行動計画策定について検討がなされました。今後、社会教育委員の皆様からのご意見があればお聞かせいただければと思います。

【質疑応答】なし

(4) 北海道市町村社会教育委員長等研修会（徳田委員長より資料説明）

市民活動の一つであるホイスコーレ札幌の活動や受講生を募集していること、社会教育委員が正規の会議以外に自主研修や、中期計画の立案・評価をしている市町村があることなどが報告された。

相馬委員：私も研修会に参加し、石狩市では社会教育委員の会議から発案された市民カレッジに取り組んだりしていますと報告してきました。

【質疑応答】なし

7 議案

(1) 石狩市芸術文化振興奨励補助金（諮問）

【質疑応答】

井畑委員：刊行物の場合、販売収入があってもいいのですか。

板谷主査：収入の部は、販売収入、自己資金、市補助金によって組まれていて、問題はありません。

【審議結果】

諮問に対し妥当であると答申することにした。

【追加募集】

板谷主査：執行残は追加募集します。なお、同じ事業には 2 回交付しないと要綱で定めていますが、年々申請しづらくなっているのかもしれないので、ご意見などありませんか。

徳田委員長：できるだけ多くの団体に使ってもらうのが趣旨でこのように決めていると思いますが、5 年経ったらまた申請できるといったことも検討してはいかがでしょうか。

山根委員：文化協会の会員で刊行物を発行した団体があるのですが、対象にはなりませんか？

板谷主査：事後は対象になりません。

徳田委員長：文化協会の会員に、追加募集があることをお知らせしていただけるといいと思います。

岩田委員：周知はどのようにしていますか。

藤原委員：市の広報でされています。私どもは申請する立場でもあるので言いづ

らい面もあるのですが、同じ事業が未来永劫とも応募できないというのではないとありがたいです。

徳田委員長：何年か経てば同種の事業でも申請できるけれども、申請が多い場合は優先順位が下がるというのはいかがでしょうか。

村中委員：寿窯さんが2回もらっているのはどうしてですか。

板谷主査：20周年のときは、姉妹都市のキャンベルリバーを訪問しての交流が事業の内容で、25周年は地元での展覧会であり、別の事業と判断しました。

若林委員：補助金の額を上げてもいいのではないですか

清水課長：補助金の制度がスタートした時は200万円ありましたが、財政難ということもあり、現在は50万円になっています。そういうこともあり、同じ団体ばかりでなく、できるだけ新しい団体の活動に利用していただくことを狙いにしていますが、申請自体が難しくなっているのであれば、たたき台を提案して協議していただくことも必要かと考えます。

徳田委員長：11月の会議に変更案を提出いただければ、協議したいと考えます。

(2) 石狩市教育プラン次期計画について

【質疑応答】

徳田委員長：今までの10年に比べて、ここ数年で変わりつつあるのは、団塊世代の大量退職による高齢化であり、そういうことに視点を置く必要があるのではないかと思います。子どものことで考えますと、親は共稼ぎが多くなっていて、その中で子どもをどう育てるのが大きな問題です。これからの5年間ではこれらのことがかなり重要であると思いますので、新教育プランの中に理念として盛り込めないかと考えます。また、大項目にある「ふるさとを学び、伝える取り組みの充実」は重要だと思いますが、石狩の特徴は海があって、川があって、森林があることでから、石狩の自然を生かした教育という観点もどこかにあってもいいと思います。ふるさとを学ぶということに入っているかもしれませんが、歴史や文化が中心になると思いますので、自然や環境も必要かなと思っています。具体的には、社会教育分野で、シニアの充実という項目はありますが、これだけではよく分かりません。例えばシニアの活用と表せば、学校地域支援本部等でも力を発揮するでしょうし、教育に生かせる部分があると思います。

東参事：高齢化社会への対応につきましては、公民館講座の中にシニアプラザというものがありますが、今までは講座を用意して来ていただくという展開でした。今後は自ら携わっていくことが重要になるという意味で、一つは市民カレッジが大きな柱になると考えています。それから大量退職される方々の知識や経験を活用する上で、学校地域支援本部等によりボランティアの活用などを含めたものを検討していきたいと考えています。子どもの環境につきましては、子育て支援サービスの向上もあるかと思っていますので、こども室との協議の中で具体化していきたいと考えています。最後に自然の件ですが、学校教育の中でどこまでできるのか、社会教育

の中で体験活動としてできるのか、こども室と協議して考えていきたいと考えております。

徳田委員長：案にある文字だけでは具体的なことは見えてきません。いろいろな解釈ができるので、できるだけ具体的な言葉を入れて、事業内容が分かるようにしていただければという意味で問いかけをいたしました。

藤原委員：具体的な事業が見えてこない、なかなか意見しづらいのですが、これらを進めるスタッフの研修や、深めるための予算付けもあったらいいと思います。学校教育とも関連しますが、放課後子ども教室とか、ふれあい広場にも、障がいや個性のあるお子さんも来るので、その子どもたちと接する職員などがそれを理解していなければなりません。その親も社会的な役割を担わされているので、今は個人の自主的な努力で研修を受けたりしていますが、スキルを高めるような予算付けをしてほしいと思います。家庭教育という項目がありますが、実際には保護者からも放り出されていて、中学生になっても自分の身の回りのことができない子どももいます。そういう子どもたちが目覚めて自立していけるような、現実にあった講座が必要で、直営でできないのであれば、できるところにお金を出して進めてほしいと思います。

東参事：子どもの対応や特徴などを学ぶ機会などの充実ということですか。

藤原委員：子どもの状況はどんどん変わりますし、自分の子どもに戸惑っている保護者も支えなければなりません。そうしたことに関わる人たちが現実をよく分かっている必要はないのです。

東参事：研修機会ということを盛り込むことを検討します。

井畑委員：資料館について、浜益にあるアイヌ文化の資料のような貴重な資料が移出しないような保存のし方に配慮していただきたいと思います。

東参事：厚田、浜益にある貴重な資料について整理しているところですが、整理のし方や、いつどのような形で公開するかなどを、今回のプランで取り上げていこうと思います。

村中委員：高齢者に対する施策は、市民カレッジも含めて、いろいろな展開がなされていますが、各団体もただ自分たちの好きなことをするだけでなく、一歩進んで社会に関わるようなことができれば、お互いがさらにいきいきするので、ぜひそういうことを呼びかけたり、進めたりするのがいいと思います。子どもたちとの関わりも大切で、浜益にある海の家も現在は使われていませんが、自然を生かした交流の場になるとと思いますので、財政状況が好転してきたら、活用することも考えられたらと思います。

東参事：高齢者の方が外へ出て人と交流することはプラスになることです。社会教育関係団体として 300 くらいの登録がありますが、その支援という項目がありますので、社会とのかかわりができるような仕組みも考えていきたいと思いますし、海の家を活用した自然体験についても財政面と相談しながら検討していきます。

5 その他

紅葉山小学校の跡地利用について（清水課長より資料説明）

資料に基づき、紅葉山小学校は、特別支援学校、社会教育施設として活用することを検討し、市民に示していくことが説明された。

若林委員：できれば事前に資料を配布していただければと思います。

清水課長：7月1日にたたき台を作ったところなのと、まだこれから関係団体との調整があり、レイアウトが大きく変わる可能性があるため、今これによろしいですかというご意見をいただこうというのではなく、パブリックコメントをしているところですといった状況をご説明させていただきました。

杉浦委員：特別支援学校は石狩市が誘致したいのですか。

三国部長：そうです。

杉浦委員：社会教育施設と同居するのですね。区切られるのですか。

清水課長：社会教育施設は1階を、2階と一部1階が特別支援学校として区切る予定です。

徳田委員長：多目的ホールには何人くらい入れる予定ですか。

清水課長：簡単な展示や、50人前後のミニコンサートをできる状況にしたいと考えています。

徳田委員長：石狩市にはある程度の人数を収容できるところがあまりないので、100数十人入れる規模の部屋があればよいかなと思います。

清水課長：視聴覚室は、2つの教室の壁を取り去って合わせたものですが、3つ続きにすると、耐震対策のために大掛かりな工事が必要になってきてしまうため、跡利用としてはこういった使い方が現実的かなと思っています。

徳田委員長：公民館とは併用して使うのですか。

清水課長：公民館には水回りや陶芸窯がありますので、役割分担をしながら今後も公民館を活用していきたいと思っています。

相馬副委員長：浜益にはたくさんの箱物がありますが、あまり利用されていません。制約が多いと使いづらくなるので、だれでも利用しやすい開放のし方を考えていただきたいと思います。

徳田委員長：できればこの施設についても、議論できるといいのですが、次回では遅すぎますので、場合によっては正規の会議以外に意見交換すること考えてみたいと思います。

議事録は上記のとおりであることを認めます。

平成 21 年 7 月 日

石狩市社会教育委員の会議委員長

6 第5回社会教育委員意見交換会（午後4時00～4時30分）

参加者：徳田委員長、相馬副委員長、岩田委員、村中委員、井畑委員、若林委員
清水課長、板谷主査、松永社会教育主事、西山主任

「えりすテレビ」の活動について

徳田委員長：社会教育委員の役割として地域とのかかわりが大きな課題としてあると思いますが、地域をつなぐという意味で「えりすテレビ」の創設でご苦労されたこととかを、様々な経験をお持ちの村中さんが今回委員に加わりいただいたので、お話しをお聞きしたいと思います。

最新番組・ダイジェスト版DVD鑑賞

村中委員：このように、ありとあらゆる番組をこれまでに700本、月に30本くらい作っています。今日も学校支援事業についても実際の映像を見てから会議に入れば盛り上がるかなと思いました。えりすテレビは産官学が提携して運営していて、石狩市からは情報や場所を提供してもらっていますが、お金はもらっていません。この度、議会の情報を発信することで120万円いただけることになりました。独立採算しなければならないので、できるだけ石狩の特色あるいいものを広告として入れています。それでもお金は足りなくて、番組を作って少しのお金をもらうなどしては、人件費がかかっていないので、かろうじて黒字になりそうかなというところです。こんな状況ですが、そう遠くない将来、テレビでもインターネットテレビを見る時代がくると思いますので、石狩市も動画としての広報紙を持つ時代かなという気がします。私も番組づくりに徹したいのですが、お金を集めるためにプロモーションもしなければならないので、その作業に追われて、取材にいけないことがあります。安心して番組を作れる環境ができればいいなと思います。市から様々な情報が発信されたときに、イベントにいけない人、緊急に知りたい人、詳細を知りたい人なんかはテレビで見られる時代がまもなく来ますので、いろいろ活用できると思います。

井畑委員：スタッフは一人ですか。

村中委員：もう一人います。二人ともボランティアです。

徳田委員長：経費が大変ですね。広告はバナーの部分ですか。

村中委員：番組に入っていることもあります。

板谷主査：一つの番組で長いものは何分くらいありますか。

村中委員：長いもので5分くらいです。あまり長いと開きづらいです。

板谷主査：もし長いものができるのであれば、市民カレッジの講座を入れて、それで受講できれば厚田や浜益の人でもカレッジのスタンプを貯めやすくなるかもしれません。

井畑委員：編集にはどのくらいの時間がかかりますか。

村中委員：撮影は、準備から含めると1日がかかりになることもあり、それを編集するとなると大変なことになるので、2時間のイベントでも小刻みにして1時間以上撮らないようにしています。

徳田委員長：厚田・浜益で市民カレッジの講座を受けられない方には、番組として撮っておいてあとで持っていくということをすれば、厚田・浜益キャンパスへの活用もでき

るかもしれません。えりすテレビにお願いしてばかりではいけないので、自分たちでやらないと駄目ですね。

村中委員：厚田・浜益は診療所や図書館で放映しています。

相馬副委員長：厚田・浜益には高齢者が多いので、文章を読んだり話を聞いたりするよりも、映像で見られるというのは、喜ぶと思いますね。

徳田委員長：イベントに行けなくても映像で見られるのもいいですね。

村中委員：テレビで見るのが普通になれば、ニュースの前にまずえりすテレビで地元の状況を知ることできるようになります。そんな時代がまもなく来ると思いますよ。それであちこちで市民テレビのようなものができてきています。番組の数は、私どもが圧倒的に多いですけど。

徳田委員長：資料館で 20 分くらいの番組があったり、石狩の花をまとめた番組があったりすると興味があります。

村中委員：退職したら人前に出るのはやめようと思っていたんですけど、最前線に出ています。

徳田委員長：地域のために活動しているということで、紹介させていただきましたが、社会教育委員のとして何かの参考になるかなと思いました。今日はありがとうございました。